

## 6 - 7 1984年8月7日日向灘の地震, およびその前後の九州地方の地震活動

**The Hyuganada, off the East Coast of Kyushu, Earthquake on August 7th, 1984, and Seismic Activities in and around the Kyushu District before and after the Earthquake**

気象庁地震予知情報課

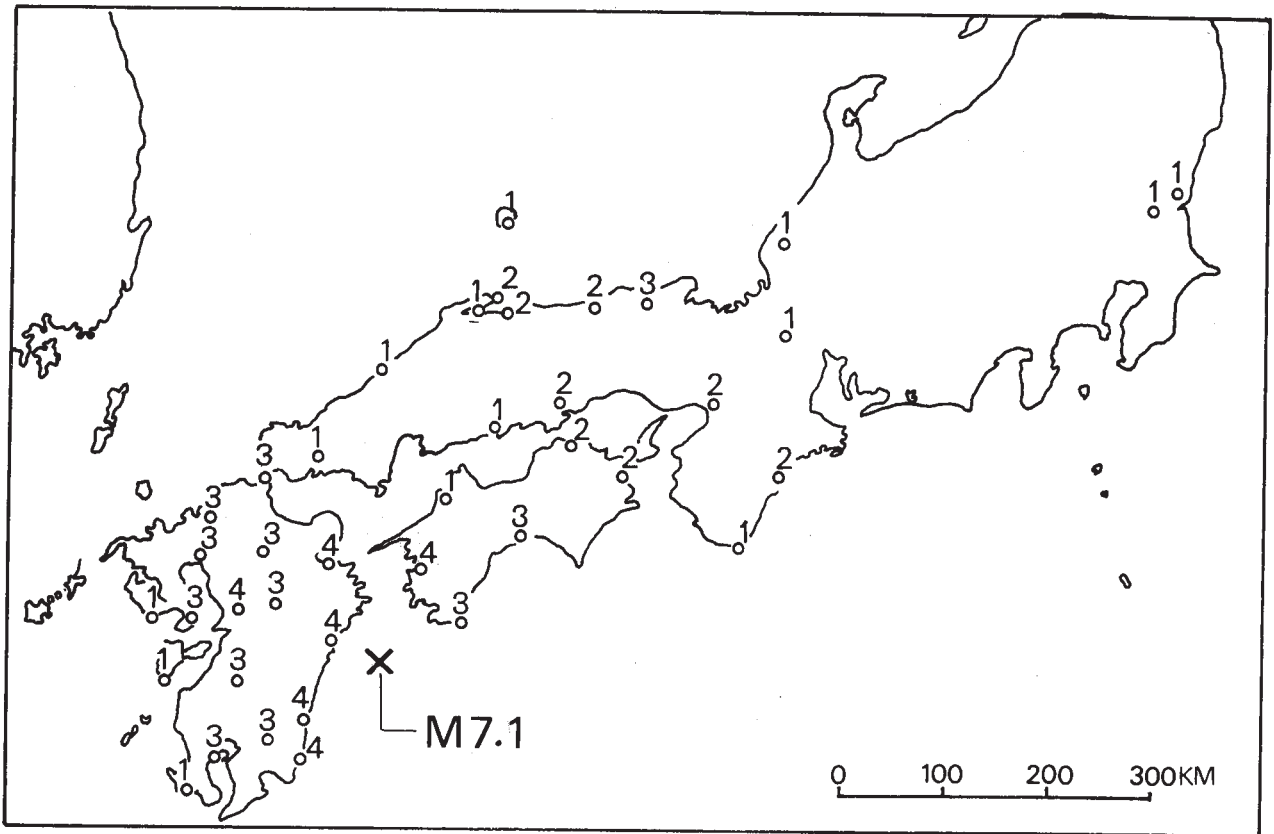
福岡管区气象台

Earthquake Prediction Information Division

Fukuoka District Meteorological Observatory, Japan Meteorological Agency

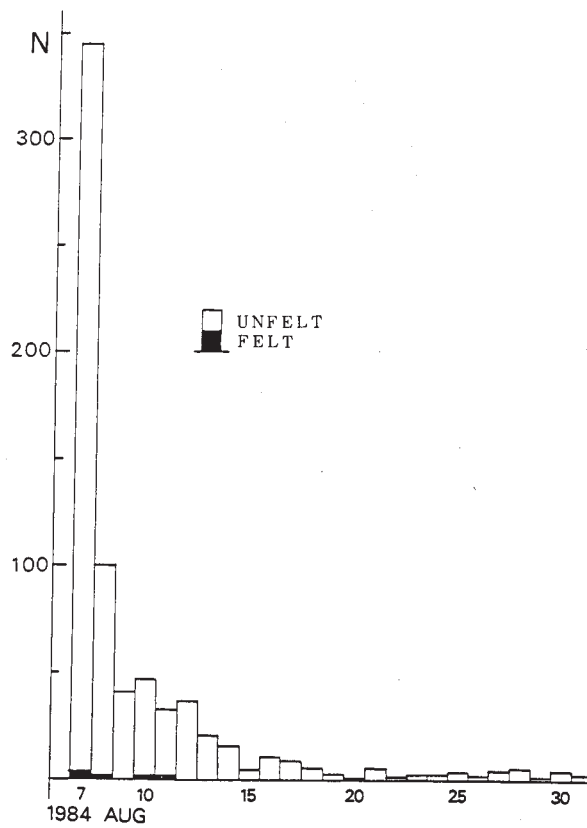
8月7日04時06分に発生した日向灘を震源とする地震(06分38.9秒, 北緯32度22.8分, 東経132度09.3分, 深さ33km, M7.1)により津波が発生し, 延岡, 土佐清水, 室戸岬で高さの最大が10数cmの津波を観測した。震度分布を第1図に示す。あまり大きい余震もなく, 日別回数(第2図)をみても余震活動の減衰は非常に順調である。15日までの余震分布を第3図に示す。余震域は本震の北にのびていて, また深さはほとんどが20~40kmの間に決っている。メカニズムを第4図に示すが, 余震のほぼ南北走向の分布は, これと調和する。また, この余震域は過去の $M \geq 5$ の震央分布(第5図)の空白域に発生しているように見える。日向灘における津波をともなった地震には, 最近では1970年7月(M6.7), 61年2月(M7.0)41年11月(M7.2), 39年3月(M6.5)等がある。

この地震と前後して, 九州地方およびその周辺では活発な活動が見られた。その様子を第6図に示す。種子島東方沖, および雲仙岳については別項で述べるが, その他にも種子島南東沖(7月1日, M5.3), 大隅半島東方沖(8月11日, M5.0; 9月11日 M5.0), 鹿児島県西方沖(8月15日, M5.5, 第7図)の活動がある。



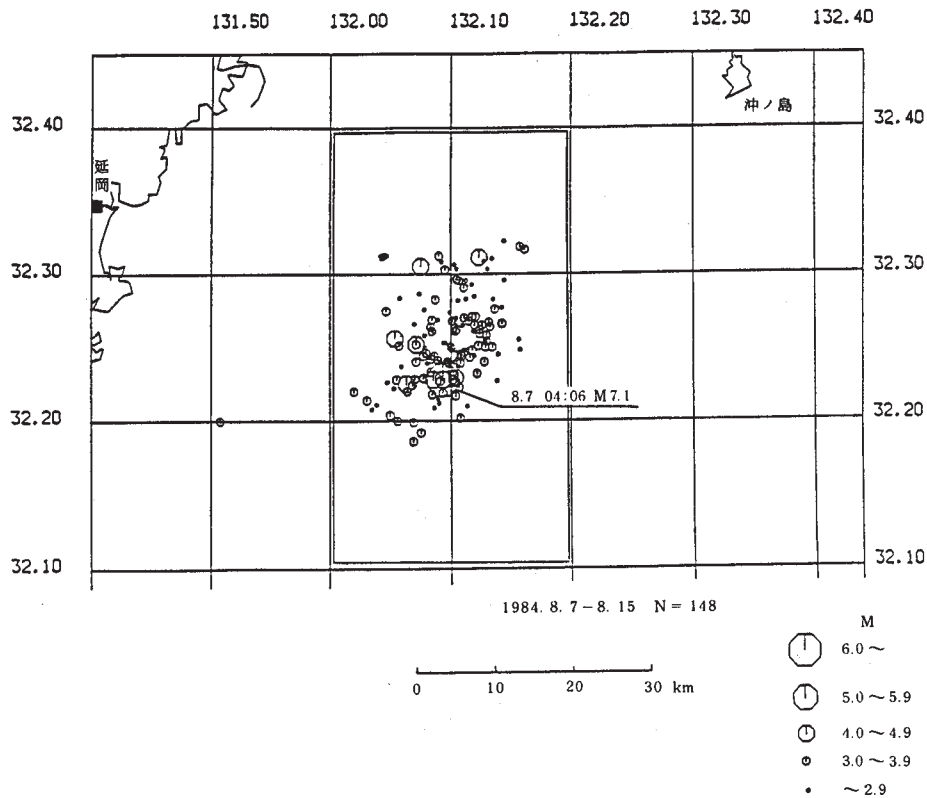
第1図 震央分布

Fig. 1 Distribution of seismic intensities for the main shock.



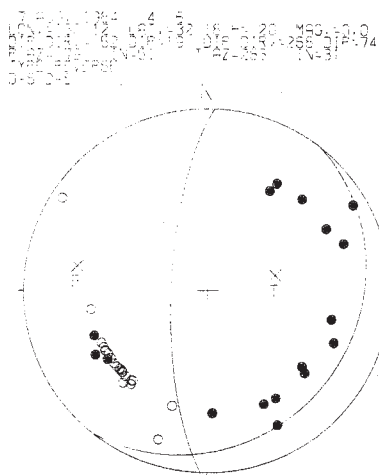
第2図 延岡の地震計による日別地震回数

Fig. 2 Daily frequencies for the aftershocks recorded at Nobeoka.



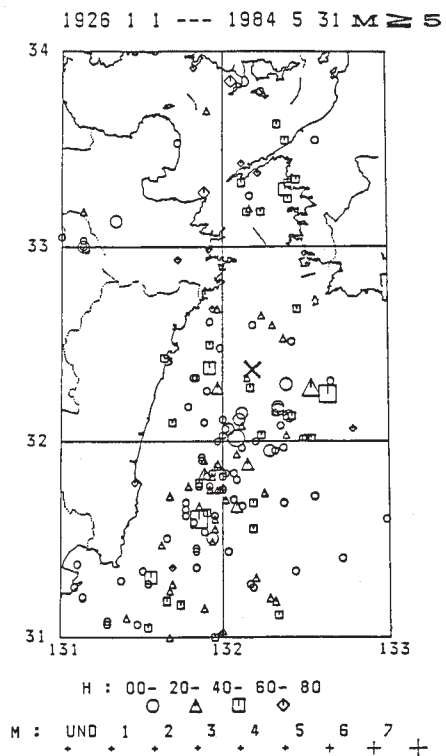
第3図 8月15日までの余震分布

Fig. 3 Epicentral distribution until August 15th. The depths are mostly from 20 km to 40 km.



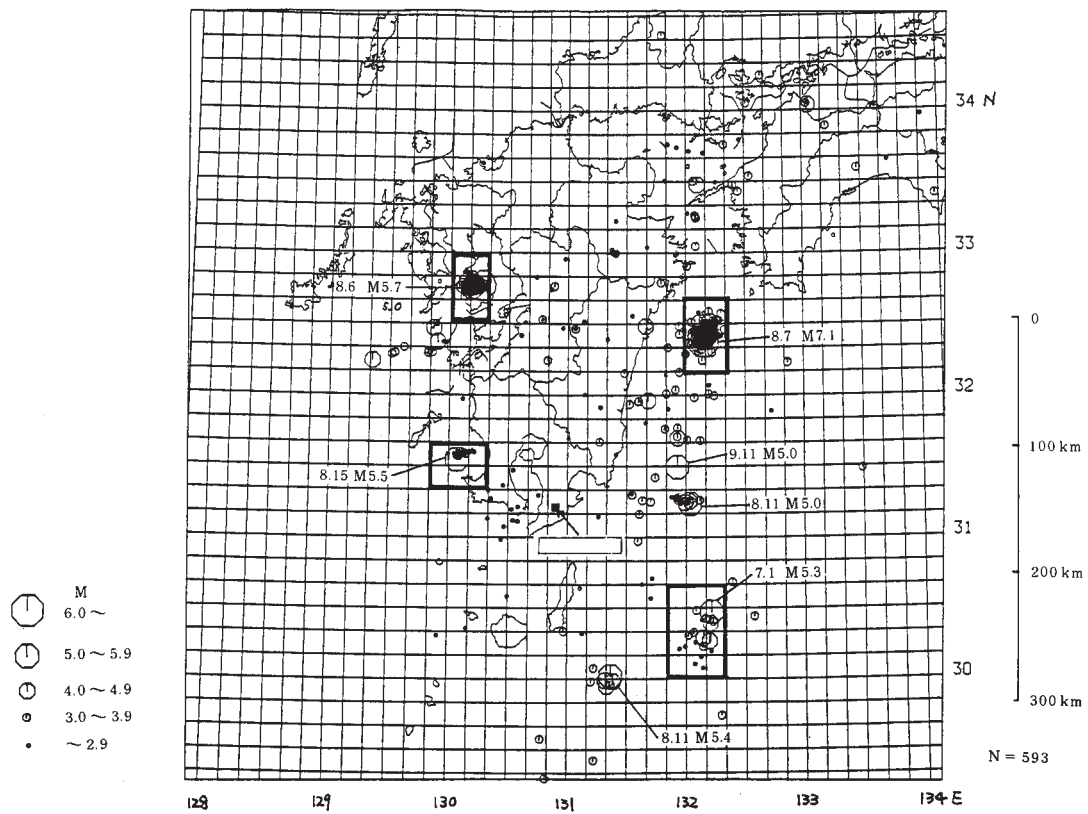
第4図 本震のメカニズム (上半球投影)

Fig. 4 Focal mechanism (upper hemisphere) of the main shock.



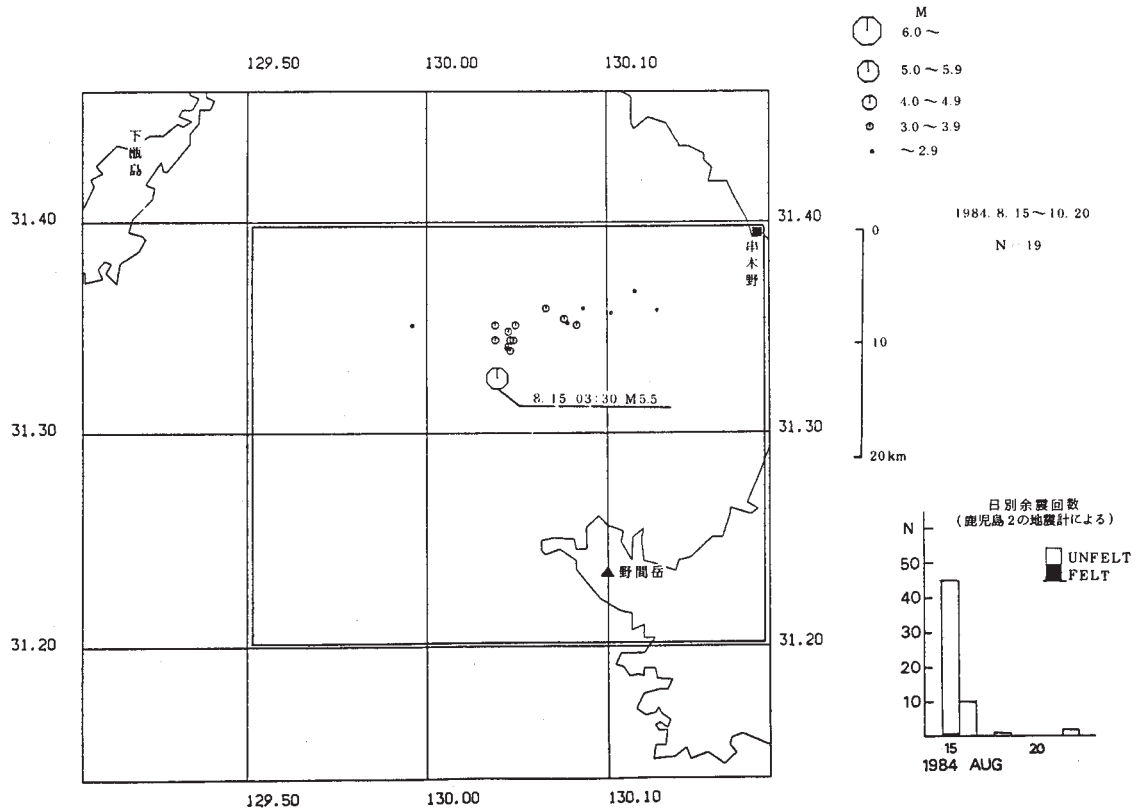
第5図 日向灘における震央分布 (1926 - 1984年5月,  $M \geq 5$ ), この地震の震源域は空白域であったようにも見える。

Fig. 5 Epicentral distribution (1926 - May, 1984,  $M \geq 5$ ) in the Hyuganada, off the east coast of Kyushu. The focal region is possibly located in the seismic gap.



第6図 最近の(1984年5月~10月20日)九州地方の地震活動

Fig. 6 Recent (from May to October 20th, 1984) seismic activities in and around the Kyushu District.



第7図 8月15日の鹿児島県西方沖の地震の余震分布

Fig. 7 Aftershock distribution of the earthquakes on August 15th, off the west coast of the Kagoshima Prefecture.